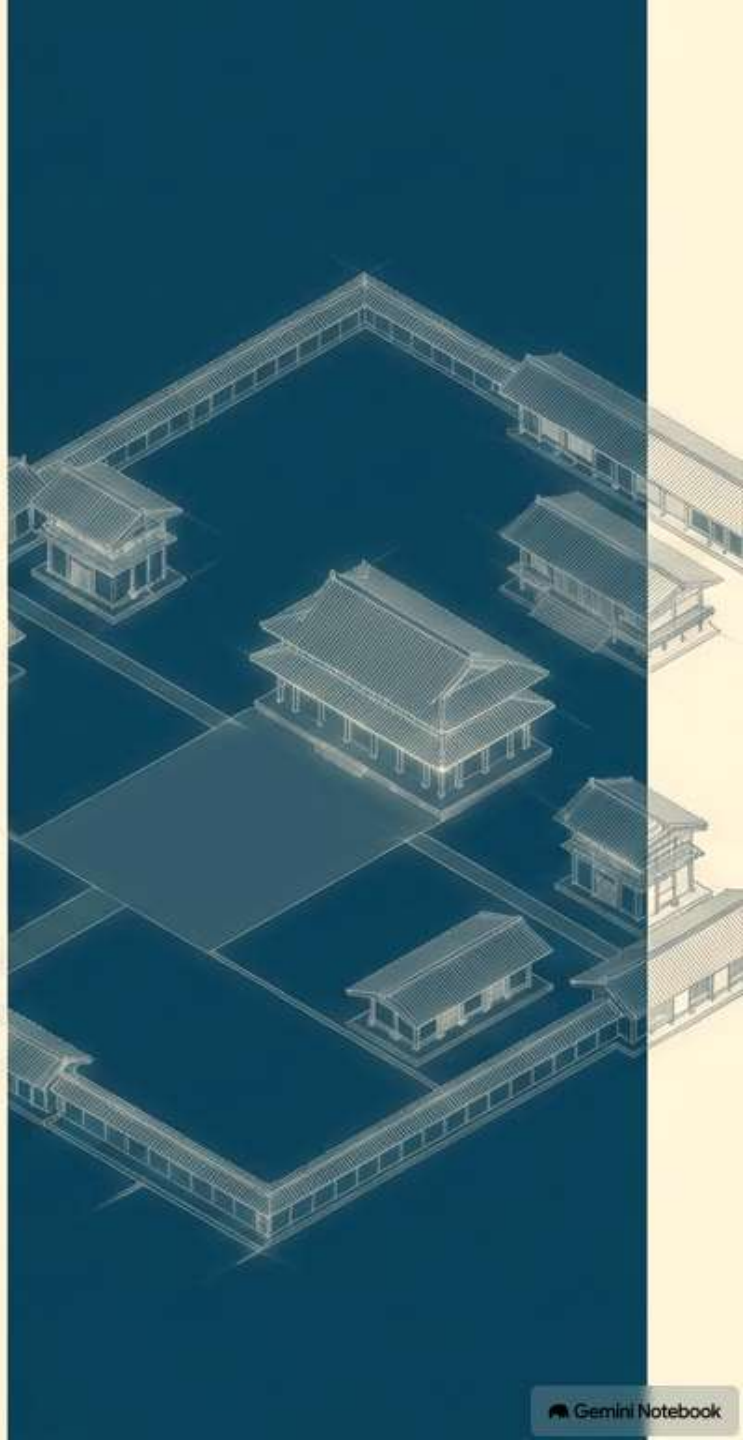
令和8年10月26日(月)
多賀城政庁復元整備に向けた説明会資料

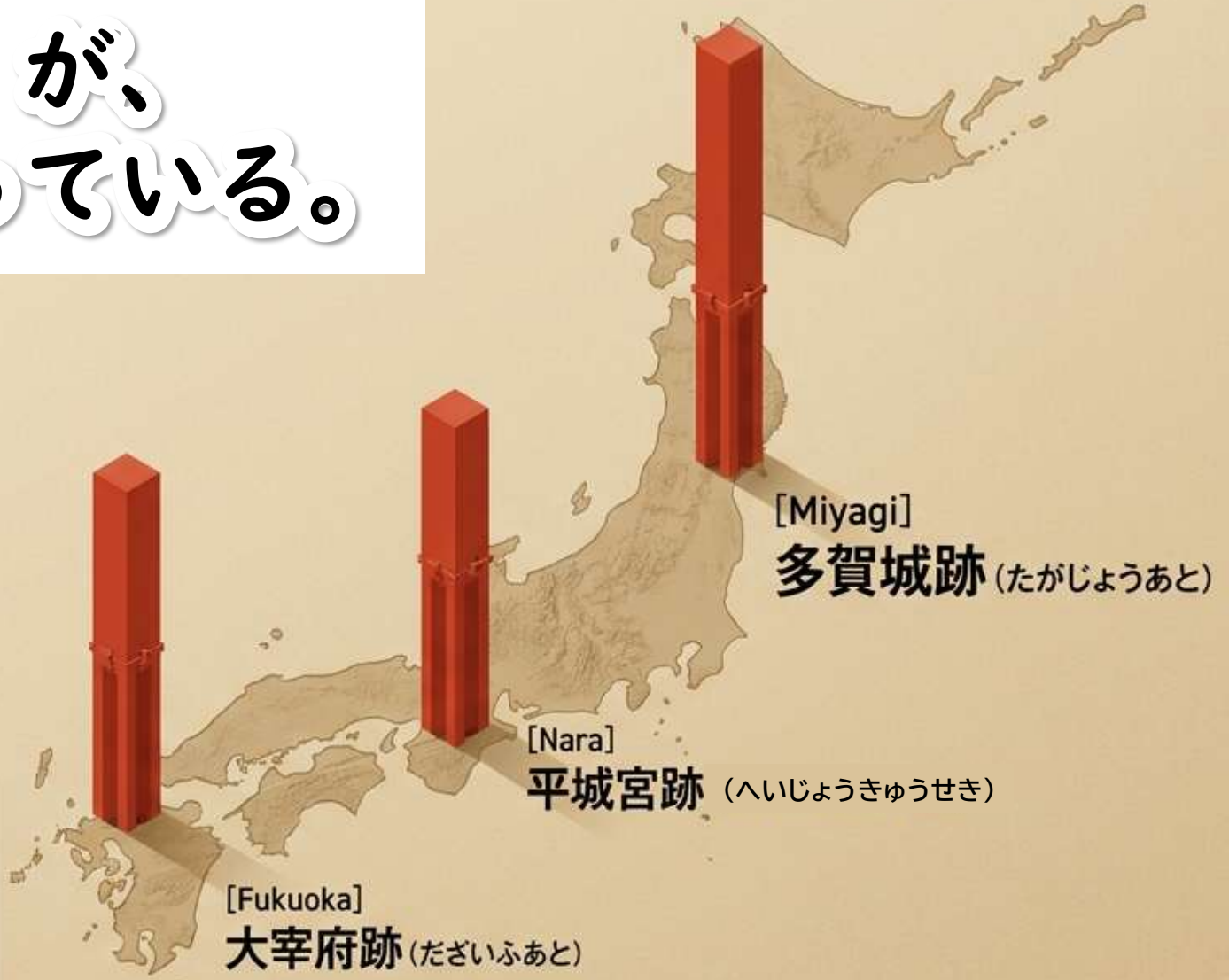
多賀城政庁復元整備事業について



宮城県教育庁文化財課

Gemini Notebook

日本の「三大史跡」が、私たちの足元に眠っている。



多賀城は、東北地方における政治・軍事・文化の中心地として大きな役割を果たしました。

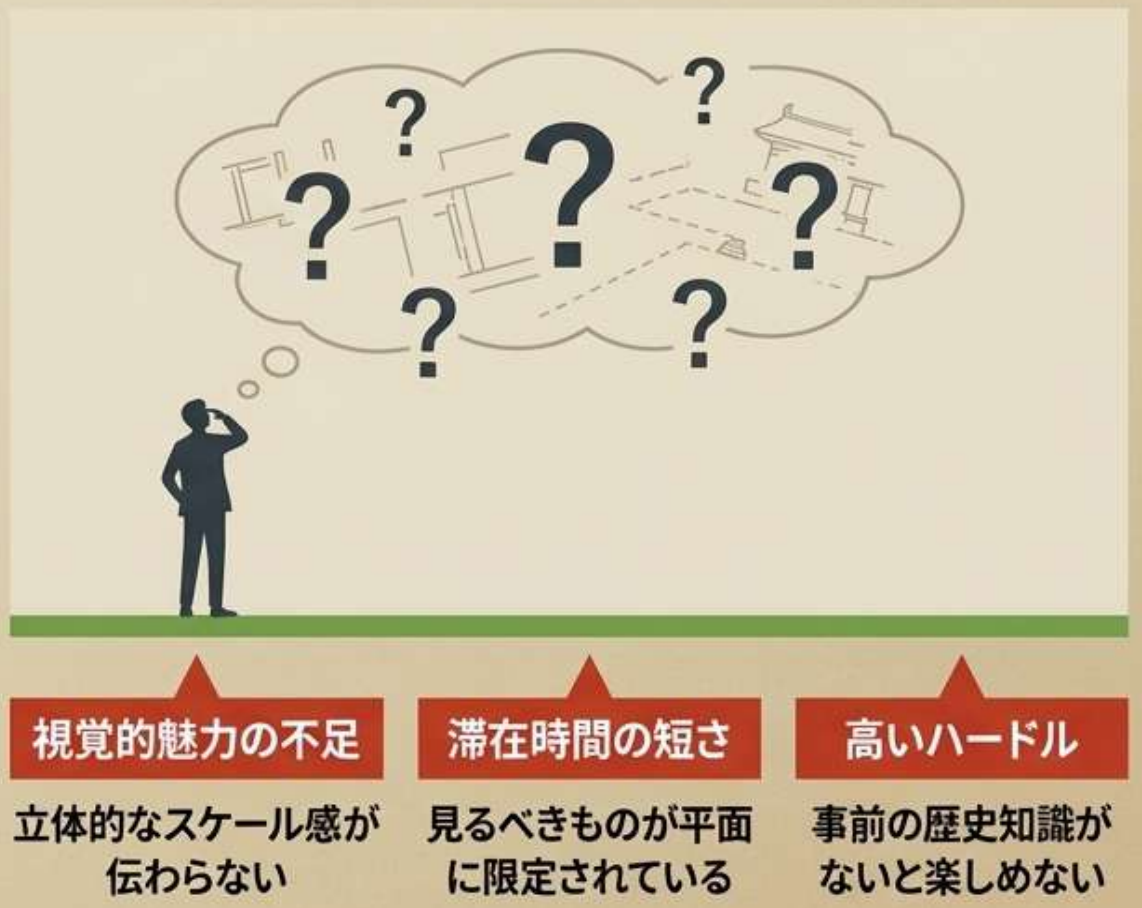
平城宮跡、大宰府跡とともに「日本三大史跡」の1つですが、知名度では劣るのが現状。

Gemini Notebook

【現在の課題】「知識」と「想像力」がなければ、歴史的価値やスケール感が伝わらない。



現在の姿：遺構の平面表示のみ



Gemini Notebook

【課題解決に向けて】検討の経緯

令和7年度（2025）

「多賀城政庁復元整備検討会」の開催

- 多賀城政庁の復元整備について、目指すべき方向性を検討し、整備後の活用等の施策を効果的かつ効率的なものとすることを目的に実施。
- 考古学、建築学、観光や地域振興の有識者、地元関係者で構成され、3回開催し、意見聴取を行った。

令和8年度（2026）

「多賀城政庁復元整備に向けた方針」の策定

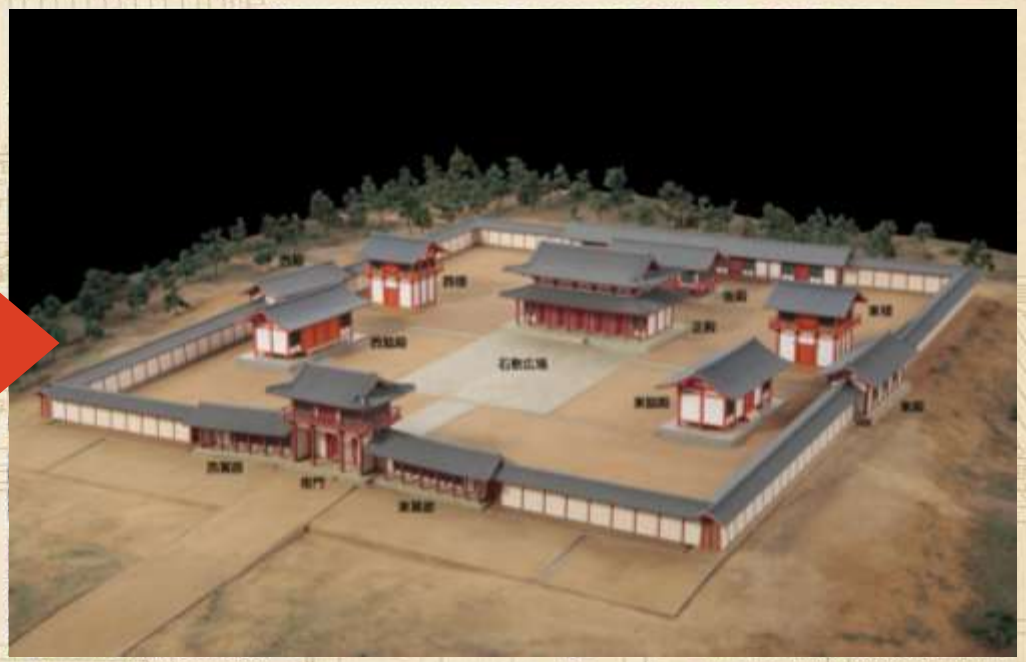
- 多賀城政庁復元整備検討会での有識者からの提言を踏まえ、県教育委員会として今後の取り組みに関する基本的な方針や進め方などを示した。

「宮城県行政評価委員会大規模事業評価」の実施

【課題解決に向けて】
もっとも荘厳な「第Ⅱ期政庁」を、実物大で復元する。



復元



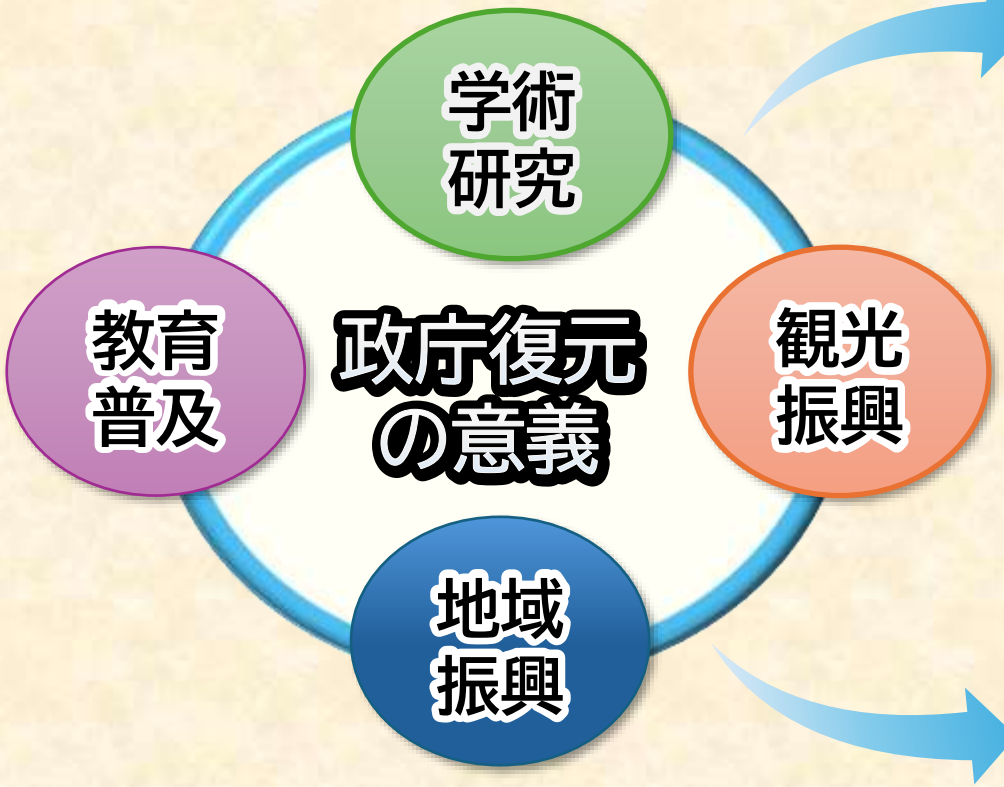
対象／奈良時代後半(762年～780年)の最も完成された姿

規模／敷地面積 10,000㎡

建築／古代復元建物(木造・瓦葺)全12棟

「歴史を体感」し、「体験を共創」する史跡への転換

復元整備の意義と目的



- ✓ 政庁の実物大復元を通じて古代の地方統治を可視化することにより、学校教育や生涯学習における歴史理解と体験学習の深化。
- ✓ 多賀城跡の魅力を高め、文化観光など多面的な利活用の誘致。
- ✓ 復元された政庁を拠点に、地元住民の史跡への関心と関与の促進。

復元整備の基本方針

1. 遺構の確実な保存

遺構の保護を最優先で実施し、歴史的価値を保ちながら復元整備。

2. 学術的根拠に基づく整備

学術的根拠に基づき厳正に検討。当時の建物と空間を正しく再現。

3. 伝統工法＋安全性・耐久性

学術的根拠に基づいた本来の材料や工法を基本としつつ、防災技術や現代的な材料・工法の併用を検討。

4. 段階的かつ公開性の高い整備

整備は段階的に進め、進捗に応じて工事の公開や情報発信。

5. 快適で知的好奇心を喚起する空間

見学路や休憩スポットを整え、来訪者が快適に滞在できる環境へ。

【完成への道のり】段階的に姿を現す歴史空間

R9～R12(2027-30)

基本計画・基本設計・基盤整備

復元整備に向けた計画・設計、遺構保護のための盛土

第1期整備

正殿

政庁の中核となる正殿から着手

第2期整備

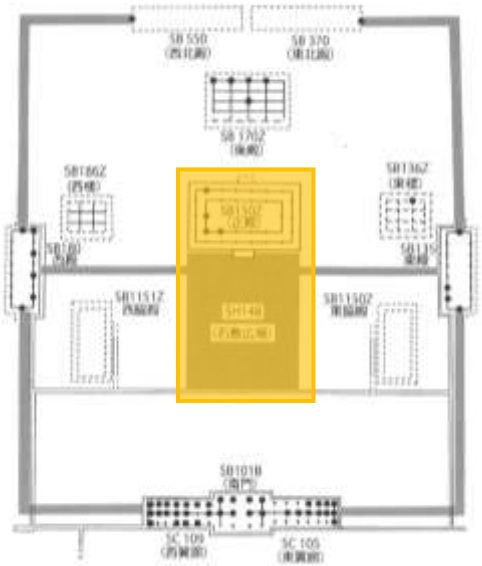
西側エリア

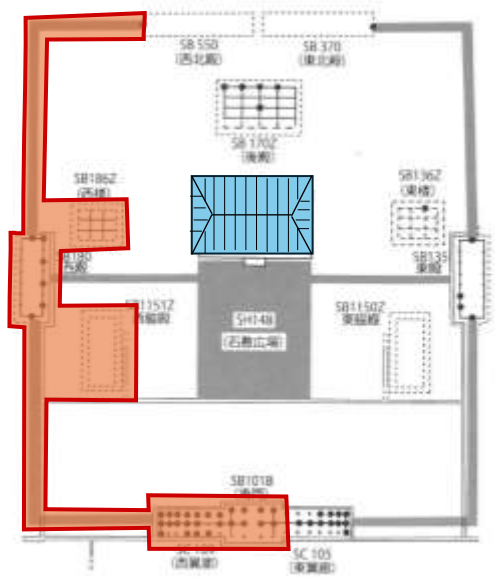
西脇殿・西殿・西楼・南門・西翼廊の整備

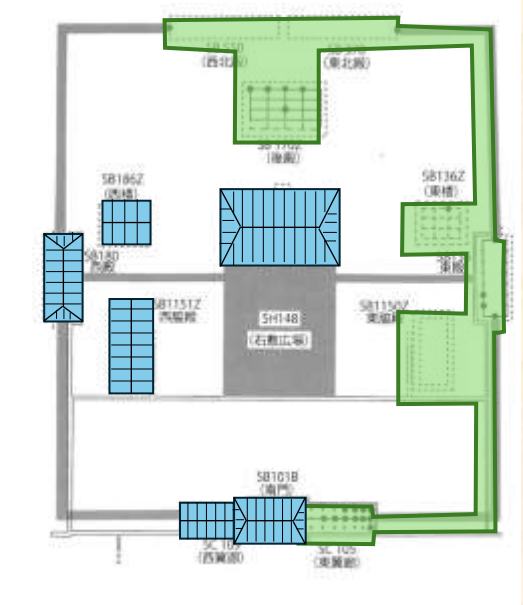
第3期整備

東側エリア

東脇殿・東殿・東楼・東翼廊・後殿・北殿の整備



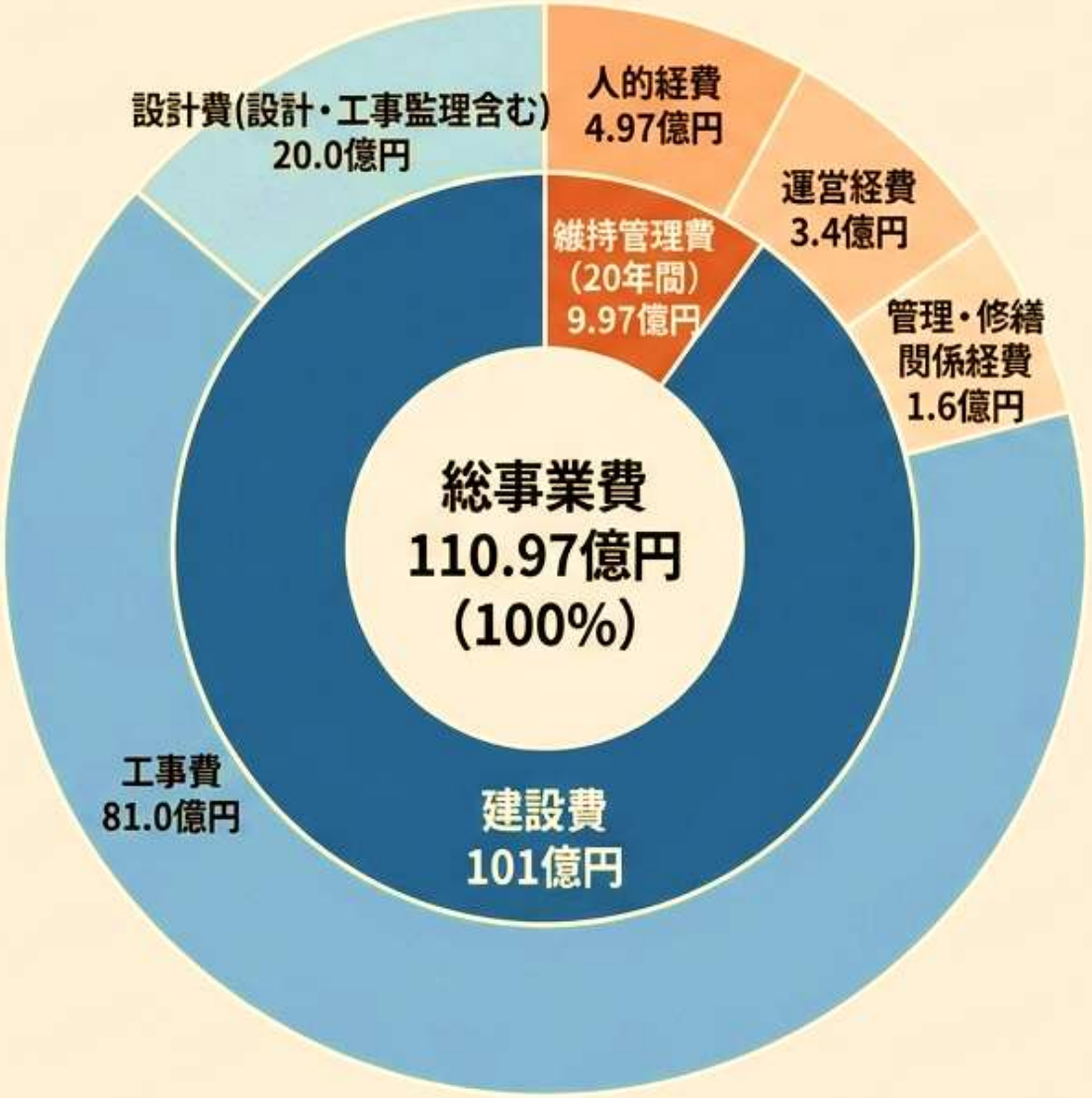




：整備済建物

令和31年度供用開始予定。段階的に公開し、情報発信を行う。

事業費内訳（総額約111億円）



【建設費（初期投資）】

遺構を保護する基盤整備と、木造建築群12棟の設計・工事にかかる費用です。

【維持管理費（20年分）】

令和31年の供用開始から20年間の運営、スタッフ人件費、および将来の修繕を見据えた費用をあらかじめ計上しています。

Gemini Notebook

なぜ今、復元するのか？創建1300年イベントが証明したポテンシャル







4 歴史的評価の最高潮
「多賀城碑」が国宝に指定

3 経済波及効果
記念事業4年間で「約90億円」を創出

2 集客力
記念事業へのべ「53万人」が参加

1 祝・創建1300年（令和6年）
南門（外郭南門）の復元完了

機運は今までになく高まっている。この成果を埋没させず、次の一手を打つ必要がある。

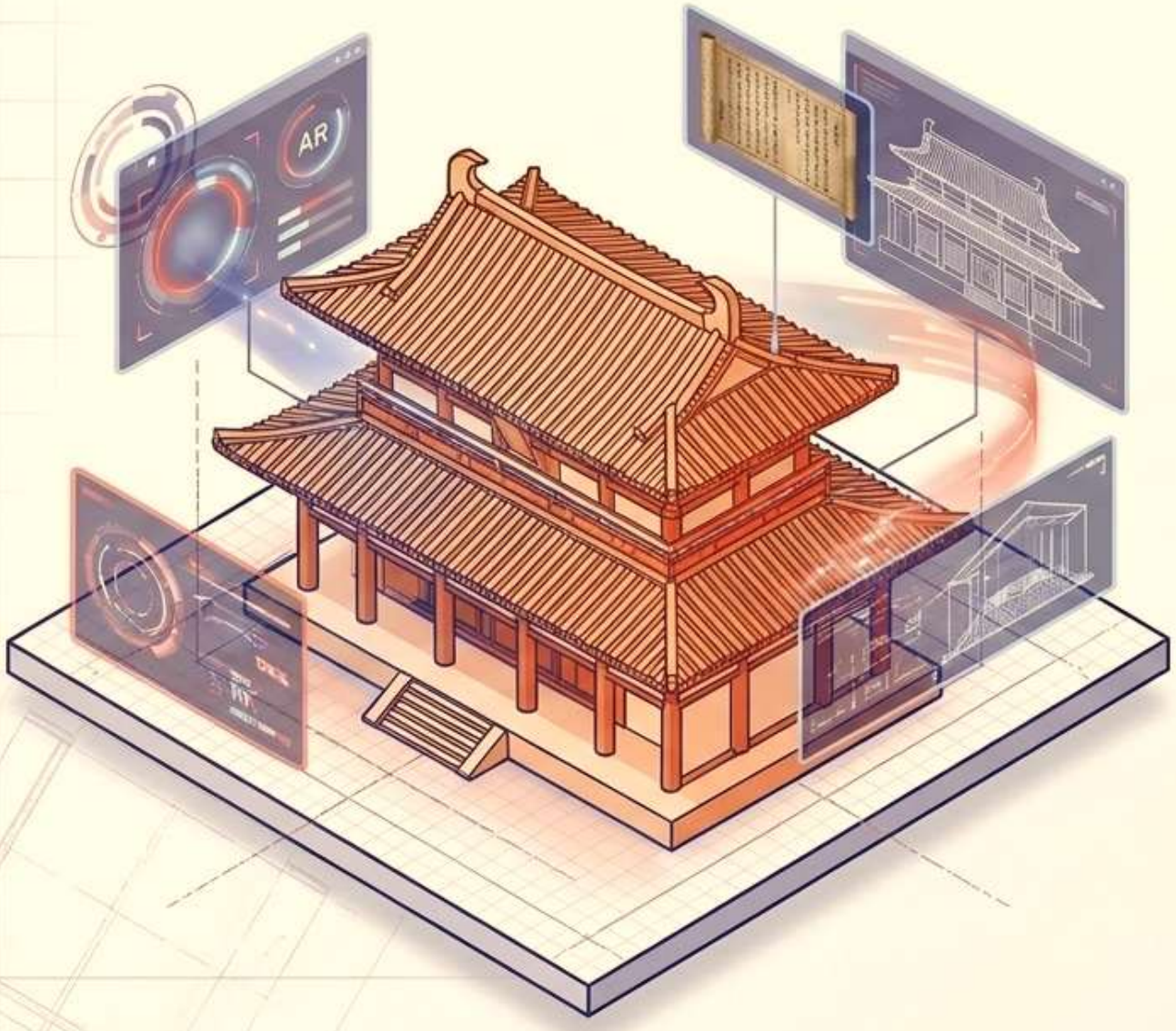
Gemini Notebook

【事業の効果】各分野へ相乗効果を生み出す



政庁復元は単なる建物の復元ではなく、各分野を循環させ、持続可能なサイクルの構築を図るもの。

「五感で体感」する次世代型歴史学習の拠点へ



リアル×デジタルの融合

実物大空間の圧倒的迫力と最新ICT技術を組み合わせ、「主体的・対話的で深い学び」を実現。

探究学習の確立

東北歴史博物館の展示・体験プログラムとシームレスに連動した、次世代型の教育環境の創出。

交流人口の拡大

県内外からの修学旅行や探究学習の強力な誘致拠点となり、未来の地域文化の担い手を育成する。

Gemini Notebook

みんなで創る多賀城の未来

県民のみなさまとともに
次の世代へ継承する歴史空間を

ご清聴ありがとうございました